

検討の観点別に見た特色

教育基本法との関連			
	観点	教科書の特色	具体例の参照ページ
第2条との関連	第一号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽科の学習を通して、幅広い知識と教養を身に付けられるように、児童に身近なテーマで、音楽にまつわる特集やコラムが設けられている。 ● 歌詞の内容に配慮した歌唱教材やいろいろな編成の器楽教材、自信をもってつくれる音楽づくり教材、多種多様な鑑賞教材が選ばれ、豊かな情操と道徳心を培えるように配慮されている。 	3年 p.2・3 4年 p.2・3 5年 p.2・3 6年 p.2・3、24・25、43 各学年の歌唱教材 各学年の器楽教材 各学年の音楽づくり教材 各学年の鑑賞教材
	第二号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 対話的な学習を通して、児童が自ら気付いた音楽の価値や、友達の見付けた音楽のよさを尊重し合えるように、教材の提示方法や活動の難易度について配慮されている。 ● 気付いたこと、理解したことを生かして音楽活動が進められるように教材間の関係性が高められ、児童の創造性を培えるように配慮されている。 ● 郷土の音楽を伝承することの大切さを伝えるコラムや写真、職業として音楽活動をしていることが分かるオーケストラの写真などが掲載され、音楽と生活、音楽と職業との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるように配慮されている。 	キャラクターの吹き出しなどの情報 全学年を通した題材構成 郷土の音楽： 3年 p.60～63 4年 p.26～29 5年 p.58～61 オーケストラの写真： 3年 p.53～55 4年 p.54・55 5年 p.20～23、26・27 6年 p.16・17、78
	第三号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 合唱や合奏、音楽づくりにおいて、ペアやグループで学習を進める際に、自分の役割の自覚やそれを果たす責任感を養ったり、友達と協力しながら音楽をつくり上げる中で、他者を尊敬しつつ、協力する態度を養ったりすることができるように配慮されている。 ● 音や音楽を通して社会とのつながりを感じたり、音楽活動が社会に果たす役割を考えたりする活動を通して、音楽文化の発展に寄与する態度を養えるように配慮されている。 ● 地域に伝わる芸能や文化などを受け継いでいる同世代の児童の写真が紹介されており、地域社会の絆を大切に、社会の形成に参画する素地が育まれるように配慮されている。 	5年 p.36・37 6年 p.18～21 各学年の音楽づくり教材 ほか 3年 p.63 4年 p.28・29 5年 p.2・3、60・61 6年 p.42・43 各学年裏表紙
	第四号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然愛護や、友人を大切にすることを歌詞をもつ歌が取り上げられており、生命を尊ぶ心情を養えるように配慮されている。 ● 自然を守ることを大切に見つめ直すことのできるコラム、大切に残したい風景をイメージできるように写真が掲載され、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるように工夫されている。 	3年 p.66・67、78 5年 p.70・71 6年 p.60・61 1年 p.30・31 3年 p.11～13、15 4年 p.10・11、44・45 5年 p.53 6年 p.12・13、45
	第五号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ● 我が国に古くから伝わる習慣や文化を紹介するコラムが設けられたり、和楽器の演奏や鑑賞にあたり、演奏家からのメッセージが紹介されたりするなど、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国を愛する態度を養えるように工夫されている。 ● お囃子や民謡が児童の発達段階に合わせて教材化されており、実際にまねする体験的な活動を通して、郷土の音楽に親しみ、愛着をもてるように工夫されている。 ● 地域に伝わる芸能や文化などを受け継いでいる同世代の児童の写真が紹介されており、児童が実感をもって伝統や文化を大切にすることを育てられるように配慮されている。 ● 自国だけでなく他国の国歌も尊重することの大切さに気付けるよう、国歌「君が代」にコラムが付されており、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるように配慮されている。 	3年 p.15、45 5年 p.14 4年 p.60 5年 p.55 3年 p.60～62 4年 p.26・27 各学年裏表紙 低学年 p.82・83 中・高学年 p.86・87

学習指導要領との関連			
	観点	教科書の特徴	具体例の参照ページ
範囲	取り扱う内容の範囲は、学習指導要領の目標及び内容によっているか。	●低・中・高の各学年の目標及び内容を踏まえて精選された題材と教材によって、必要な範囲の内容が十分に扱われており、音楽科の目標を達成するという観点から極めて適切なものとなっている。	各学年目次及び各ページ
	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成できるよう配慮はなされているか。	●音楽活動を通して、無理なく音楽を形づくっている要素を捉えたり、それを生かして表現や鑑賞の活動が進められるように、題材は系統的に構成され、学習のねらいは児童に分かりやすく示されており、音楽と豊かに関わりながら、学校での学びと自分の生活をつなげられるように、適切に配慮されている。	各学年各ページ
目標	「知識及び技能」の習得に関する目標の達成に向けて、工夫はなされているか。	●曲想と音楽の構造との関わりについての気付きや理解を促す内容の吹き出しが適切に配置され、児童にとって学習目標や学習活動との結び付きが分かりやすいものとなっている。 ●児童が自身の表現に対してもった思いや意図を実現するために役立つ写真やコラムが、発達段階や学習の系統性を踏まえながら、適切に示されている。	各学年各ページ
	「思考力、判断力、表現力等」の育成に関する目標の達成に向けて、工夫はなされているか。	●児童の作品例やワークシート例のほか、グループ活動時の会話を想定した吹き出しが例示されるなど、児童が表現に対して思いや意図をもったり、音楽や演奏のよさを味わいながら聴いたりするために必要な情報が適切に示されている。	3年 p.34・35、58・59 4年 p.48～51 5年 p.30～33 6年 p.36・37 ほか
	「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標の達成に向けて、工夫はなされているか。	●1年間の学習の見直しをもつことができる「学習マップ」のページや、1年間の学習を振り返ることができる「ふり返りのページ」が設けられ、児童が主体的に学習に臨むことができるよう工夫されている。 ●各題材の最初のページに題材のねらいを、最後のページに学習を振り返るまとめを掲載し、児童がこの題材で「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」を確認し、これからの学習につなげられるよう配慮されている。 ●児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にあるさまざまな音や音楽への関心を促す教材や特集が配置されている。	低学年 p.2・3、80・81 中・高学年 p.4・5、82・83 各学年各題材の最初と最後のページ 1年 p.32・33 2年 p.28・29 5年 p.2・3 ほか
(共通事項)	(共通事項)は、学習指導を進めるうえで適切に扱われているか。	●各教材で学習する(共通事項)に示された音楽を形づくっている要素が各教材ページ端に示されており、さらに、児童が理解しやすい言葉で学習のねらいや活動文、吹き出しの中などで繰り返し記されるなど、適切に扱われている。	各学年各ページ
指導上の配慮や工夫	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、配慮や取り組みはなされているか。	●児童が自ら進んで学習活動に取り組むことができるように、学習の目標や具体的な活動例、ヒント、資料などが豊富に用意されており、音楽的な見方・考え方を働かせながら学習が進められるように配慮されている。 ●児童自らが学習の目当てをつかめるように、活動文に「考える」「見つける」「歌う、演奏する、つくる」のマークを示し、「思考力、判断力、表現力等」や「知識」「技能」に関わる内容を意識しながら学習を進められるように工夫されている。 ●キャラクターの吹き出しなどにより、児童が意見を交流しやすいようなヒントが示されているほか、専門家からのメッセージを読むことによって、自分の考えをより広げたり深めたりすることができるような取り組みがなされている。 ●巻末には、鑑賞資料やリコーダーの運指表、楽典事項、振り返りのページがまとめて設けられており、児童が興味・関心をもちながら主体的に学習を進めていくことができるように配慮されている。	各学年各ページ 各学年各ページ 各学年各ページ 各学年巻末
	言語活動の充実に向けた配慮はなされているか。	●聴き取ったり感じ取ったりしたことをもとに思考・判断し、理解したことを言葉や音楽で表現できるよう、表現教材及び鑑賞教材においては、譜例(絵譜)や挿絵を用いた説明などが充実しており、それらを活用することで、言語活動の充実が図られるように工夫されている。	1年 p.50・51 2年 p.42・43 3年 p.37、39 4年 p.16・17、33 5年 p.19～21、28・29 6年 p.16・17、34・35 ほか
	児童が実感をもって学習を進めるための体験活動や体を動かす活動は、適切に設定されているか。	●郷土の音楽を学習する際に、児童が親しみや実感をもって音楽に接することができるように、口唱歌の体験や民謡の歌い方をまねする体験活動が示されている。 ●児童の音程感覚を養うために、挿絵の「ドレミ風船」を指さしながら歌い、音の高低の違いを手の動きによって感じ取る活動を設定するなど、歌唱の技能の育成につながる指導上の工夫が取り入れられている。 ●和音の響きの違いを体の動きを使って感じ取ることができる活動例が示され、実感をもって学習を進められるように工夫されている。	3年 p.60～62 4年 p.26・27 1年 p.43 2年 p.21 ほか 5年 p.35

編集上の工夫や特色

	観点	教科書の特徴	具体例の参照ページ
構成・配列・分量	題材や教材は系統的・発展的に組織されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 題材は、学習指導要領に示されている低・中・高の各学年の目標及び内容を踏まえて構成されており、各学年、全学年を通して系統的・発展的に組織されている。 ● リズム唱、階名唱、合唱などの歌唱の技能や、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの演奏の技能については、発達段階を考慮した無理のないステップが踏まれている。 	各学年各ページ リズム唱： 1年p.18～29、2年p.32～37 階名唱： 低・中学年 (「ドレミ風船」の扱い) 鍵盤ハーモニカ： 1年p.34～43、2年p.22～27 リコーダー： 3年p.20～29、49～51 ほか
	教材の配列は、単なる羅列ではなく、教材性に即して適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 系統性及び発展性をもって組織化された題材を軸に、表現と鑑賞の教材が関連、対照、対比されながら組み合わせられており、教材性を生かした多様で効果的な学習が展開できるように配列されている。 	各学年各ページ
	基礎的・基本的な学力の定着について適切な配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 相互に関連性をもった教材の配列により、積み重ねの学習や繰り返しの学習を行いやすく、音楽活動の基礎的な能力の定着、伸長が着実に図れるように配慮されている。 ● その題材で学んだことを振り返ることができるまとめを掲載し、児童が「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」を確認できるよう工夫されている。 ● 各学年で学んだ重要な学習事項を、児童が自分で振り返り確認することのできる「ふり返りのページ」が設けられており、基礎的・基本的な学力の定着を図れるように配慮されている。 	各学年各ページ 各学年各題材の最後のページ 低学年 p.80・81 中・高学年 p.82・83
	各学校や児童の実態に応じた学習指導計画を立てるための配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 全学年の系統は題材と教材の扱いによって維持され、題材ごとに教材、活動、程度などが柔軟に選択できるよう弾力的に組織されており、学習指導計画の作成に当たり、各学校や児童の実態に対応できるよう適切に配慮されている。 	各学年各ページ
	スタートカリキュラムへの配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年生の導入ページにおいて、聴こえてくる音楽に合わせて体を動かしたり知っている歌と一緒に探して教え合ったり、ペアやグループで体を動かしながら歌ったりする活動が取り入れられており、無理なく段階を踏んで音楽的な学習へ移行できるように配慮されている。 	1年 p.6～21
	教材や文章の分量、バランス、内容は適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 題材、教材の分量及びバランスは、各学年の授業時数に配慮したものとなっている。 ● 題材のねらいに即して、学習内容や関連教材などが有機的に組織されており、教材や学習活動の分量を弾力的に増減できるように配慮されている。 ● 文章は児童に分かりやすく丁寧に示されており、文章量も適切なものとなっている。 	各学年各ページ
	教材の選択及び扱いは、学習指導を進めるうえで適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 明確な学習の観点のもと、幅広く学習活動を行うことができるように多様な教材が用意されており、児童が意欲的に取り組むことができるように配慮されている。 ● 児童の心情に即した新鮮でアイデアに満ちた教材が扱われており、興味・関心をもって学習を進めることができるように配慮されている。 	各学年各ページ 各学年各ページ
教材の内容や程度	教材や学習活動の程度は、児童の心身の発達段階や能力の実態に適応しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 楽曲や歌詞の内容、音域などについても児童の心身の発達段階に応じて十分に考慮されている。 ● 柔軟で弾力的な学習活動を行えるように程度の差を考慮した教材が扱われており、各学校や児童の実態に合わせて活動を選択することができるように配慮されている。 	各学年各ページ 4年 p.20・21 5年 p.16 6年 p.18～21 ほか
	「音楽づくり」の学習活動について適切な配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習のねらいや活動の手立てが明確に示されており、児童が主体的に「音楽づくり」の学習活動に取り組むことができるように配慮されている。 ● 「音楽づくり」の教材が題材内で有機的に取り上げられており、他の音楽活動と関連させながら学習を進め、学びや、思いや意図を相互に生かせるように配慮されている。 ● 「音楽づくり」の教材については、各学年の発達段階を考慮した無理のないステップが踏まれており、学年が上がるにつれて、着実に学力の積み重ねが行われるように配慮されている。 	2年 p.28・29 3年 p.34・35 ほか 1年 p.48・49 4年 p.62・63 5年 p.38・39 ほか 1年 p.48→2年 p.60→ 3年 p.64→4年 p.62→ 5年 p.38→6年 p.30

	観点	教科書の特徴	具体例の参照ページ
教材の内容や程度	我が国の伝統や文化に関する教材の扱いにおいては、児童が我が国や郷土の音楽に愛着をもてるよう配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 手遊び歌や縄跳び歌などのわらべうた、地域に伝わる伝統芸能など、児童の生活に即した教材が学年段階に応じて、幅広く用意されている。 鑑賞教材として取り上げた伝統芸能や民謡などには、児童に親しみやすい切り口で学習のねらいや活動が設定されており、実際に音楽の一部を体験する活動を加えるなど、鑑賞学習のポイントを押さえつつ、音楽的側面から親しめるように配慮されている。 	1年 p.66～69 2年 p.58・59 3年 p.60～63 4年 p.26～29 5年 p.58～61
	童謡や唱歌などを含めた我が国の音楽文化に対する配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 共通教材については「こころのうた」と銘打ち、我が国の文化や自然環境の保護などの視点からコラムや写真などが用意されており、児童が知的好奇心や感受性を働かせながら歌うことができるように配慮されている。 各学年に「歌いつごう 日本の歌」として童謡や唱歌などが精選して取り上げられており、世代を超えて日本の音楽文化を共有することができるように配慮されている。 	各学年の共通教材 1年p.78・79、2年p.70・71 3年p.70・71、4年p.70・71 5年p.66・67、6年p.56・57
	鑑賞曲の選択及び扱いは適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> 題材のねらいに即した選曲により、学習内容が明確になっているとともに、授業時間内で繰り返し鑑賞することができるように曲の長さについても配慮されている。 題材のねらいに含まれる音楽を形づくっている要素を橋渡しとして、歌唱や器楽などの表現活動と関連付けられるように鑑賞学習のねらいが設定されており、鑑賞と表現の学習が密接に関連するように工夫されている。 	各学年の鑑賞教材 3年 p.46～49 4年 p.38～40 5年 p.18～21 ほか
	他教科との関連について適切な配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 他教科との関連を図ることで、児童の興味・関心・意欲を高めて学習を一層深めることができるよう、調べ学習や英語の歌、日本の古典芸能などが適切に配置されている。 	4年 p.28・29 5年 p.36・37 6年 p.80・81 ほか
	プログラミング的思考の育成に対して配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色やリズムパターンの組み合わせなどに見通しをもち、試行錯誤を繰り返しながら音楽をつくる教材が設けられ、児童が論理的に考える力を身に付けられるように配慮されている。 	3年 p.58・59 4年 p.24・25、48～51 5年 p.30～33 ほか
	国際理解、情報、人権教育などに配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 諸外国の音楽文化に対する理解を深められるよう、踊りの音楽や合奏の音楽を比較鑑賞の形で掲載し、それぞれの音楽のよさや違いを捉えやすくなるよう配慮されている。 国歌「君が代」を大切に歌うことと他国の国歌を尊重する態度を養う観点でコラムを設け、国際理解につながるよう配慮されている。 音楽に関する知的財産権についての特集「著作権について知ろう」を設け、作品(著作物)や著作者を尊重する気持ちを育めるよう配慮されている。 作曲家からのメッセージが紹介されたり、音楽をつくった人や演奏する人の工夫を考える活動が取り上げられたりするなど、音楽を大切にできる態度が養えるように配慮されている。 友達との触れ合いや、自然や動植物を大切にできる歌詞を取り上げるなど、道徳との関連にも行き届くよう配慮されている。 震災を体験した方によるメッセージや、復興がきっかけで歌が生まれたことを伝えるコラムが設けられ、「音楽に何ができるか」という観点から児童が考えることができるように配慮されている。 	2年 p.12・13 6年 p.48・49 低学年 p.82・83 中・高学年 p.86・87 6年 p.24・25 5年 p.9、47、55 3年 p.66・67、78 5年 p.70・71 ほか 5年 p.22 6年 p.43
表記・体裁・装丁	説明文やイラストなどは、学習指導を進めるうえで適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜や文字の大きさなどは、児童の発達段階に応じて設定されており、見やすさや読みやすさについても十分に配慮されている。 イラストや写真などの取り上げ方もアイデアにあふれ、音楽的感覚の育成や知的理解、学習活動の一助となるように、児童の感性に即して適切に扱われている。 	各学年各ページ 1年 p.32・33 2年 p.44・45 3年 p.24、49 5年 p.47・48 ほか
	ユニバーサルデザインへの配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書紙面全体として、区別しやすい配色を用いながら、学習上の必要に応じて形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるように配慮されている。 文章や歌詞、楽譜などの近くにイラストや写真が配置される場合には、学習に必要な情報に確実に注目することができるよう、シンプルなデザインが採用されており、学習障害のある児童への配慮が行き届いている。 	各学年各ページ
	全体の体裁は、学習指導を進めるうえで適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> 紙面の大きさは適切で、レイアウトも見やすく統一感がある。 題材ごとに通し番号が振られ、インデックス(小口見出し)によって題材のまとまりが分かりやすく示されるなど、見通しをもって学習することができるように工夫されている。 	各学年目次及び各ページ
	印刷・製本などは適切であるか。	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜、文字、イラスト、写真など、印刷の発色もよく、鮮明なものになっている。 製本はページどうしを接着した丈夫で長持ちする様式のものとなっている。 再生紙や再生可能な植物油インキを使用するなど、環境にも配慮されている。 	各学年各ページ